

開成の杜

第74号 ●2007年9月27日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園

●発行所／学校法人郡山開成学園〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎024(932)4848(代) <http://www.koriyama-kgc.ac.jp> ●発行人／学園長 関口富左



アカシアも仲間入り

(撮影 山口郁生)

なお又、先の『開成の杜総集編』の通読により、消失していた記憶の再生が、如何に次なる行為発想に役立つ要因となるか知らされて、小史実践の筆に出たことを喜ぶ。それにしても編集者各位の真摯な労作、好編集による出版の労苦

……と。
 郡山開成学園、学園報『開成の杜』紙を継続出版する。
 振り返って見るに、本紙は単なる一紙面に過ぎないと軽く見ていた傾向もあつたろうが、日々継続の教育実態、ひいては、その教育の在り方、いうなれば学園教育小史的であり、記事は生きた史述として貴重な記録たり得ること、また、学園教育確認の視点とも見られる。本紙は、教科による通常教育史とは異なるが、視点としても心を寄せ得るだけに、互いに知り合う諸事項の内に実践的記述の意味が鮮明となり、各紙を通して学園教育全容について理解し得るのであるが、改めて本紙のもつ学園史(抄)としての良さを知らることができよう。その都度の編集は、繁忙で苦勞であつたろうが、日々における細部の事柄、その対応の成果は、視点の捉え方に特色ある実態として貴重であつた。学園報『開成の杜』を知ること、学園の過去を、学園の今を、また将来を予測するなど、本学園教育諸要素を秘めつつ、思いの、考慮の、実践的特色を産むのであらう……と。

「開成の杜」の継続により、互いに次なる教育の充実と進展を図ろう。
 秋近し(H19.9.1記)

人を日々計画を立て、それを実践し、自他の有益性を深めつつ日を重ねているが、それらが如何に継続し、如何に人生に意味を有するかに、いかに自他の考慮も持たないとしても、目的をもつての行為の継続性は、正にわれを創り、他を裨益する。これらの事々について着実に行為し、互いに交流し、そこに新たな生の実践を産むことの意味は貴重である。従つて、史実から学ぶ、またその記録を通して、新たな行為の有意性を知ることが、深い思慮と行為、乃至はその内から、事の有益性を知ることが多い。本大学『開成の杜』を通読し、新たな憶いや想像を誘発する等、記録の現実的意味を知ることが、次なる行為の再生を産み、行為が自らの充実、変転を導くことか……と。

「歴史は現存者に新たな意味を気づかせて、更なる充実へと誘引する」
 人は日々計画を立て、それを実践し、自他の有益性を深めつつ日を重ねているが、それらが如何に継続し、如何に人生に意味を有するかに、いかに自他の考慮も持たないとしても、目的をもつての行為の継続性は、正にわれを創り、他を裨益する。これらの事々について着実に行為し、互いに交流し、そこに新たな生の実践を産むことの意味は貴重である。従つて、史実から学ぶ、またその記録を通して、新たな行為の有意性を知ることが、深い思慮と行為、乃至はその内から、事の有益性を知ることが多い。本大学『開成の杜』を通読し、新たな憶いや想像を誘発する等、記録の現実的意味を知ることが、次なる行為の再生を産み、行為が自らの充実、変転を導くことか……と。

さあ、時も、事柄も、人も、世情も変わる今日であるだけに、新たな『開成の杜』を通読し、自己の在り方の再考・再生を図り、本学園教育の本質を捉え、各自充実の深考を収めよう。
 “歴史は現存者に新たな意味を気づかせて、更なる充実へと誘引する”

を重ねた島崎編集者を始めとしての本件担当者方の着実性と継続的努力を讃えたい。
 学生、生徒諸子も本紙を充分に通覧し、諸々の行為の実質性、又は対象による事実の内奥等のうちに、真摯な意味を知り、あらたな教育行為の深淵さを覚え、その重要性を認識することの意味は深い。



学園長 関口富左

継続する学園報道紙

本学園の教育充実 一層の進展を求めて

第四十四回学園教育充実研究会で心理的理解や対応について意見交換



39年目に入った研究会

不登校、学生・生徒の問題行動等の顕在化により複雑化、深刻化している学校教育の現状を踏まえ、「資質を伸ばす学園教育(一)」を主題として、特に学生・生徒の心理的理解や対応の問題に焦点を当てることとした。

初日の全体会では、はじめに関口富左学園長が「日々学生・生徒達に向き合っていると、どう理解したらいいのか、どう接したらいいのか考えることも多い。学生・生徒の状態をいかに知るか、心理的な側面も含めて学ぶ必要があるように思う」と挨拶した。

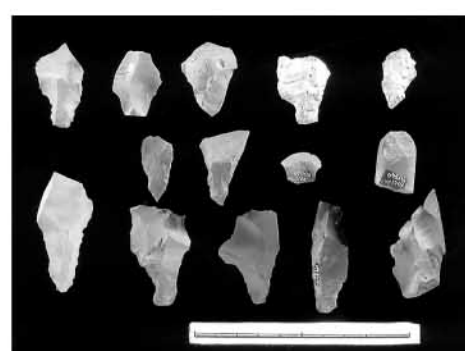
引き続き、研究会に先立って行われた公開授業の内容を踏まえた授業実践発表が行われた。
まず附属高校食物科の佐々木淑子教諭による「食物科二年調理実習」「感性を育む調理技術の授業」が映像を交えて発表された。

次に、短期大学部家政科福祉情報専攻の奥秋和夫准教授が、「言葉と表現」「呼吸と発声・発音」実習を中心とした授業」を音楽科一年の公開授業から発表した。

その分析結果も報告された。
二日目は十二の分科会に分かれて連日研究が行われた。今回の講演や授業実践発表の内容や、日々の授業の課題点などについて活発な意見交換を行い、その成果の一部が全体会で報告された。

最後に関口学園長から「本研究会も四十四回を数え、振り返ると毎回、熱意を込めて研究を愛し、追求するという姿勢が横溢しており、他に類を見ない研究会であって誇らしい。今回の研究の成果を個々の学生・生徒にどのように充実させていくか、さらに研鑽を重ねて欲しい」との講評があった。

この地域には平安時代(九世紀)縄文時代初頭(約七千年前)そして後期旧石器時代(二万五千年以前)の人類の生活の痕跡が残されている。今回の調査で後期旧石器時代の人々が生活した面から、焚き火跡が確認された。そこから得られた炭粒のAMS法による放射性炭素年代測定を行ったところ、
28,030 ± 180yBP (IAAA-70356)・
28,140 ± 190yBP (IAAA-70357)



約2万8千年前の貴重な出土品の一部

高大連けい授業

考古学発掘調査で貴重な出土

短大文化学科では、「考古学Ⅱ」の実習発掘調査を五月十九日から二十二日まで会津若松市笹山原No.16遺跡で実施した。調査には文化学科学生のほか高大連けい授業として附属高校生も参加して行われた。

この地域には平安時代(九世紀)縄文時代初頭(約七千年前)そして後期旧石器時代(二万五千年以前)の人類の生活の痕跡が残されている。今回の調査で後期旧石器時代の人々が生活した面から、焚き火跡が確認された。そこから得られた炭粒のAMS法による放射性炭素年代測定を行ったところ、
28,030 ± 180yBP (IAAA-70356)・
28,140 ± 190yBP (IAAA-70357)

本学園の第四十四回学園教育充実研究会が八月二十日、二十一日の両日、芸術館大教室を主会場に、学園の全教職員二百三十名が参加して開催された。



全体会で挨拶する関口学園長

本研究会は、学校法人郡山開成学園の建学の精神に基づき昭和四十四年に学園教育の充実と発展を求めて継続的に教育の研究を積み重ねてきたものである。
特に今年度は、一般社会、一般傾向として近年の学力低下問題や



講演する群馬大学古屋健氏

続いて群馬大学教授の古屋健氏により「青年期の心理的ストレスと生活適応」と題して講演が行われた。古屋氏はまず、青年期に見られる不適応行動の多くは心理的ストレスによる障害または不適切な対処行動であると考え、心理的ストレスと指摘した上で、「ストレスを除去することも大切だが、青年期においては適度なストレスはむしろ成長を促進する。適切なサポートを与えながら成功経験を積み重ねるなど、ストレスとの上手な付き合い方を指導していくことが大切だ」と述べた。

第三十一回 中高教育の連けいを深める

研究会ひらく

第三十一回中学校・高等学校教育連けい研究会は、六月二十八日県内外の各中学校から先生方をお迎えし「一人ひとりの個性を伸ばし、各人の特色を発揮するために」のテーマのもと、「中学校と高等学校が互いに連けいし合い、生徒一人ひとりが個性や能力を伸ばし、生涯を通して自己を磨きうる資質をやしなう教育を目指す」ことを目的として行われた。

午前中は、附属高等学校のそれぞれのコース・学科の特色ある授業が公開された。その後、全体会に引き続き、東京成徳大学大学院教授の勝倉孝治先生が講演した。「教師と生徒の人間関係について」という演題のもと、現代における心の問題を臨床心理学の立場から



活発な意見交換が行われた中・高教育連けい研究会

省エネで地球温暖化防止

光熱水費の5%節減へ

本学園では積極的にエコ対策に取り組んでいるが、その成果が着実に実っている。昨年度の学園光熱水使用によるCO₂の排出量は省エネ運動を始めた頃と比べてマイナス一〇%。これは、京都議定書の我が国が目標とするマイナス六%を大幅にクリアしている。

そこで、今後さらに5%削減を目指すことになり、学園内に節約を呼びかけている。OA機器の電源オフ、空調の温度設定厳守、消灯の励行、実験機器での節電等々の徹底を図る。使用量5%削減によりCO₂はさらに三七トン減る。学園は資源サイクル、ゼロエミッション、屋上緑化等を実施し社会的責任を果たしている。

大学・短期大学部 合同説明会

平成二十年度学生募集要項 発表

本学では平成十九年度学生募集に係わる、選抜実施内容等説明会を六月二十九日開催した。

県内外の高校から進路指導関係の先生方七十二名が参加した。

全体会では関口富左学園長が本学の歴史、建学の精神等を説明し、

関口修学園長代理は本学でのIT施設の充実を挙げ、情報時代への対応が十分なされていることを述べた。各学科主任教授は学科の特色や学習内容を紹介した。

この中で大学食物栄養学科ではこの春の管理栄養士国家試験の合格率が全国平均三五・二％に対し、本学は六七・一％であったことを明らかにして本学の存在をアピールした。

引き続き授業参観、施設見学、出身校別在学生との懇談等々があり、個別相談では募集要項に沿った具体的な質問が続出した。本大学と短大の平成二十年度入学者選抜方法は次のとおり。



個別相談コーナーで真剣な表情で話を聞く参加者

〔選抜方法〕

○推薦生

特待生・推薦生(指定校・公募)

○特別生

専門・総合学科・専修校・社会人・留学生・帰国子女等

○高大連携生

郡山女子大学附属高等学校生徒

○一般生

大学入試センター試験併用可

〔願書受付〕大学・短大共通

○AO生(自己推薦)

エントリー受付

①② 受付終了

③ 12/10 1/17

④ 1/22 2/8

⑤ 2/12 2/27

○指定校・公募 受付

一期 10/10 10/23

二期 11/12 11/20

○一般生 受付

一期 1/15 1/25

二期 2/14 2/27

〔選抜日程〕要項に記載。

入園のご案内 附属幼稚園

「よくみる よくきく よくか」がえて」を教育目標とする本園は二年間または三年間の保育を行っているが、満三歳の誕生日を迎えた日より随時入園できる。平成二十年度の募集は平成十四年四月二日より平成十七年四月一日の間で産まれた男女が対象。十月一日から募集を開始し、定員に達したら締め切る。

本園では、十月十四日に運動会を予定しているが、未就園児でも参加できる演技も用意していますので、多くのご参加を期待している。

附属高等学校教育内容等説明会

平成二十年度の教育内容を発表

県内の中学校から進路指導関係の先生方を多数お招きして、平成二十年度の教育内容及び生徒募集の概要を説明する会が九月十四日建学記念講堂で開催された。

初めに関口富左校長が「女性の高等教育の普及と向上」をめざして開学した本校の歴史と女子教育の必要性を説いた。

次いで各学科の紹介があり、それぞれの特徴を述べた。そして平野副校長が平成二十年度の入学者選考要項、大学と短大の山田幸二副学長が大学の概要を説明した。附属高等学校の平成二十年度募集要項は次のとおり。

〔募集人員〕

○普通科

総合学芸コース 一二〇名

スポーツ健康系コース 四〇名

人文学系コース 一六〇名

○音楽科 二〇名

○美術科 二〇名

○食物科 四〇名

〔選考日程〕

〔出願期間(必着)〕

●特待生 平成十九年十一月八日

十一月九日

●中高連携推薦生

平成十九年十二月四日

平成二十年二月五日

●AO生(自己推薦)

平成十九年十二月四日

平成二十年二月五日

●学力選考生

平成二十年一月九日

十一月十日

〔選考日〕

●特待生 十一月十五日

●中高連携推薦生 十二月十四日

●AO生 十二月十三日

●学力選考生

平成二十年一月十八日
合格発表日および選考方法については募集要項に詳しく掲載してある。



募集要項の説明はパワーポイントで

夏休みを前に方部別教育懇談会
教育方針で理解を深める

保護者の方々に大学の教育内容や学生指導方針を理解していただく家族会主催の方部別教育懇談会が本年度も開催された。

六月三十日の仙台といわきを皮切りに七月七日の郡山。八日の栃木(宇都宮)、岩手(盛岡)。十四日の福島、会津。そして十六日の白



郡山会場で挨拶する関口富左学園長

河の八会場で開催された。

大学側からは関口富左学園長、関口修学園長代理、山田幸二副学長、それに大、短大の各学科主任教授、教務関係、学生生活関係、就職関係の責任者が各会場に分かれて出席し、参加した保護者に現状を説明した。

教務課からは、卒業に必要な単位数や出席率、また、本年は特に麻疹予防対策として休校した分の補習が夏休み直前の土、日に実施することなどの説明があった。

学生生活課からは、休み中の学生生活でご家庭での事故防止「安全・安心」をお願いした。

就職部からは、この春の就職率は好調な伸びを示し、特に、大学と短大の食物栄養系が100%を達成したと伝えた。

この後、学科別個別面談に入った。

「屋上菜園」の有効活用補助金
研究内容が評価される

「屋上菜園」は校舎の屋上に設置した実習農園で、本年度は①屋上での稲作(陸稲)②さつまいもの葉によるヒートアイランドの緩和③防鳥ネット栽培の検証を内容とした研究を進めている。①では水不足が懸念される地球温暖化に対応して、屋上での稲作を検証する。

②では野菜栽培が温度上昇の緩和効果に役立つことを観察する。③では防鳥ネット栽培で野鳥からの被害を無くす。

このような「屋上菜園」の有効活用が評価され、日本私立学校・共済事業団からの「平成十九年度教育・学習方法等改善支援」補助金が認められた。



稲刈りを体験する学生たち

屋上菜園で初の稲刈り

本学の屋上菜園はヒートアイランド緩和対策としての「緑化」も兼ねているが、今年初めて実験した陸稲(もち米)がみごとに実った。二十四坪分のうち、九月十九日に半分の十二坪分を大学・食物栄養学科生が中心となり待望の稲刈りをすませた。残りの半分はもみじ会で参観者の手によって刈り取られる。そして、先に刈り取ったもち米で「菜園餅つき」を行い収穫を祝うことになっている。

今回の実験により貴重なデータを得たが、地球温暖化で今後水不足が懸念される中、水なし稲作への期待が高まっている。

特集

オープンキャンパス

見えてくる私の青い空

進学希望者のオープンキャンパスへの期待が高まっているなか、本学園では大学と短期大学部が合同で七月十五日と九月二日の二回開催した。参加者は約一千名。学科内容の説明と模擬授業で本学の教育方針を理解していただいた。開成式では、関口富左学長が建学の精神と沿革、そして女子の高等教育の普及向上を目的とした創設の時を語り、人間教育を基盤とした女子のみの教育体であることを強調した。各料が実施した当日の様様を紹介しよう。

パネル展示で担当教員が教育内容を説明

大学／人間生活学科



開成式で建学の精神を説く関口学長

人間生活学科は「生活総合」「福祉」「建築デザイン」の三つのコースで教育内容を示したパネルを用意し、担当教員がコースの狙い、特徴、資格、進路等を丁寧に、わかりやすく説明した。また、多様な建築



学科の設立目的や内容を聞く参加者

糖尿病食を試作・試食

短大／家政科食物栄養専攻

「糖尿病食の実験を体験してみよう」がテーマ。実習室で六名一組に分かれて調理台を開き、糖尿病食を試作した。メニューは「そうめんサラダ風」。そうめんをゆでて薬味を計量して、盛りつけをゆで加減、盛り付けに手本を示した。試食後は、使用した食器類の洗浄、実習室の清掃も行い衛生面での指導も受けた。



調理を終え、糖尿病食を試食する高校生たち

幼児教育の基本を学習

短大／幼児教育学科

保育科が本年度から名称変更で幼児教育学科となった。その学科概要の説明があった後、四つの教室に分かれて体験授業。「リズム遊び」では、重ね歌の（かっこうのこ



新聞紙を使い、切り貼りで作品をつくる造形体験

正規授業での試験課題曲をレッスン

短大／音楽科



デザイン実習室を見学する参加者

挨拶（とあしたも元気）の二曲を学んだ。「造形体験」では新聞紙で貼り絵をつくったり、切り貼りしたりの工夫。このほか「保育の原点を考える」や「保育と心理学を考える」コーナーでは幼児教育の基本的な考え方を学び、志願への意志を固めた様子であった。

美の探求で貴重な体験

短大／生活芸術科

「油彩・絵画」「彫刻工芸」「CGアート」「デザイン」と多様な分野を専門的、実践的に幅広く学ぶことのできる創美の世界を紹介。参加者は在学生の制作ぶりを見学したり、コンピュータ操作でCGアートを試作したり、美の創造で貴重な体験を積んだ。

ピアノのレッスンはシェーマン作曲の「幻想曲」、音楽レッスンは「イタリア歌曲」。自分の目指す授業を見学し、



個人レッスンを真剣に見学する高校生と保護者

寮生活は：

家庭寮



保護者の方が夢中になっていたの拓本作り

施設見学では家庭寮を希望する保護者が多くあった。遠方からの志願者はマンションやアパートより学生寮が安心できるとあって関心が強かった。職員から寮費や食事関係、部屋の取り等々、くわしい内容の説明を受けた参加者は、在寮生の案内で部屋を見てまわった。寮生活の一端に触れ、また、在寮生のしっかりとした受け答えに保護者は納得した様子であった。

憧れの高校生活を体感

附属高校体験入学会開催



開成式で挨拶する関口富左学長

平成十九年度第一回体験入学会が七月二十九日と三十日の二日間開催され、中学生と保護者それに教員の合わせて約四百名を迎え盛会のうちに終了した。

平成十年度から始めたこの行事も今年で十回と回を重ね、郡山市内はもとより県内各地の中学校にも知れ渡り、参加者も広域から集まってきた。開催側の高校も全職員で準備に当たり、当日は天候もよく、体験会場内は若い中学生の熱気にあふれていた。

開成式は関口富左学長が「ようこそ、体験入学へ」と歓迎の言葉を述べたあと、本校紹介のビデオを上映、川名忠造副校長が本校の特色についてと学校生活について説明、そして平成二十年度の入学者選考の説明へと続いた。

そして、嶋貫愛沙生徒会副会長の歓迎の挨拶、マーチングバンド部がドリル演奏で歓迎した。高校生活への夢を膨らませた開成式であった。



普通科の英語の授業を体験する中学生

体験入学は体験学習と施設見学のグループに分かれてそれぞれのメニューをこなした。音楽や食物のコーナーでは、高校の授業の一端を身体で感じることで中学生は満足した様子であった。また、スポーツ体験では高校生の力あふれる演技、動きに圧倒され、音楽科のミニコンサートでは芸術性の高い演奏に感動した様子が見られた。



理科実験に目をこらす参加者

閉成式では体験入学者を代表して郡山三中の渡邊智香さんと郡山六中の村上奈緒さんが「実際に見学、体験をして頭の中で想像していた高校生活がより現実味のあるものになり、今回の体験入学会で学んだこと、感じたことをこれから学習に、進路選択に役立てていきたい」とさわやかに挨拶した。第二回体験入学会を十月二十八日（日）に予定している。



真剣に学ぶ高校生

NEWS

学園ニュース

デッサンやピアノ演奏の実技指導

短期大学部夏期講習会

「生活芸術科」美術系コースへ進学を予定している高校生に技術向上を指導する講習会が八月一日から三日間、芸術館で開催された。講座はデッサン、コンピュータ

1、彫刻の三部門。四十五名が受講した。デッサンでは静物を鉛筆で描く。CGでは画像編集ソフトによる画像合成やポストカード制作。彫刻は粘土でシーサーや果物、野菜を作って素焼きする技術を専任教員から直接指導を受けた。



技術向上のアドバイスを受ける受講生

幼稚園で同窓会

懐かしい顔が揃う

附属幼稚園の夏恒例の同窓会が七月三十一日、園内で行われた。小学生を中心に約二百名が揃った。関口園長の歓迎のことばの後、懐かしい「園歌」を全員で歌い、昔に戻って旧交を温めた。紙粘土工作や和紙染め、サッカー等で楽しんだ後は「カレーライス」の昼食。材料を刻んだりしてお手伝いする旧園児に先生方も大助かり。和気あいあい盛り上がった同窓会であった。



園長先生のお話を久々に聞く卒園児たち

全国栄養士養成施設協会の研修会 本学にて開催

第九十九回を迎えた全国栄養士養成施設協会の夏期研修会が八月九日・十日の二日間、本学にて開催された。全国からの参加者は約六十名。初日には本大学の藤本健四郎教授が「脂質栄養の現状と問題点」芳賀脩光教授が「生活体力の向上および疾病予防に役立つ運動適応の効果と処分」と題して講演。二日目は本学の教授、准教授、講師が四つの分科会で各々のテーマに沿った研究成果を実験、実習をもって発表した。郷土の伝統料理コースでは料理した品々を試食、調理学の実験を学んだ。

中越沖地震被災地へ見舞金

大学・短大校友会

七月十六日に発生した新潟県中越沖地震で被災した人々へ義援金をと、大学と短大の校友会が学内で募金したところ十六万円が集まった。福島民報社へ寄託した。

毛さん、学生水泳で準優勝

人間生活学科一年生の毛文輝さんは、郡山市で開催された第八十三回日本学生選手権水泳競技大会で、高飛びと3メートル板飛び込み競技でそれぞれ準優勝と活躍した。また、別府市での日本選手権水泳飛び込み競技で1メートル飛板と10メートル高飛び込みで各々五位入賞の好成績を残している。

多彩なプログラムで充実

高校／音楽科・音楽部定期演奏会 高校の音楽科と音楽部による第三十六回定期演奏会が七月二十一日、建学記念講堂大ホールで開催された。音楽部の大合唱で幕を開け、音楽科の十三名がピアノ独奏、ピアノ連弾、クラリネット二重奏、フルート二重奏など、多彩なプログラムで時の流れを忘れさせるよ

大学ならではの授業を体験

短大／文化学科

公開授業はアニメ「となりのトトロ」を宗教的に読み解く講義。アニメの映像を学問的に分析する大学ならではの授業に高校生は真剣な眼差しで臨んでいた。また、「縄文土器と対話する」授業には考古学実習室に多数の参加者が詰めかけ、土器片の拓本をとる手作業を体験した。薄墨で叩く手付きも徐々に上達して笑顔がこぼれる楽しい雰囲気の中で進められた。

◆高木恭子 助手(学務担当) 郡山女子大学家政学部食物栄養学科卒業。管理栄養士。所属・短期大学部家政科食物栄養専攻

■発令期限付採用 九月一日

目標は掲げるだけではなく、達成させるものと心におき、日頃から稽古に励んでいる剣道部は、インターハイに出場、高校生にとって最高の晴れ舞台で技を披露した。放送部もNHK杯全国高校放送コンテストおよび全国総合文化祭に出場した。入賞こそ逃したものの立派に発表を行い、三年間の部活動の最後を飾った。

学校法人 郡山開成学園

平成十八年度 事業報告

学校法人郡山開成学園は平成18年度の事業報告を発表した。報告は一、法人の概要 二、事業の概要 三、財務内容 四、監査報告 五、在籍学生数となっている。

以下、その報告書の概要である。

一、法人の概要

- 法人名 学校法人郡山開成学園
- 所在地 福島県郡山市開成三丁目25番2号
- 代表者 理事長 関口 修
- 学園長 関口 富左
- 設置学校名
- 郡山女子大学大学院
開設：修士課程 平成4年4月
博士課程 平成8年4月
- 郡山女子大学
開設：昭和41年4月
- 郡山女子大学短期大学部
開設：昭和25年4月
- 郡山女子大学附属高等学校
開設：昭和32年4月
- 郡山女子大学附属幼稚園
開設：昭和30年4月
- 学校・学部・学科等の入学定員

(1) 在籍総数

2、550人

○在籍数一覧 表①参照

○平成18年度修了生・卒業生数

3名

○現在までの修了生・卒業生数

75名

大学院	108名
短大	460名
専攻科	6名
高校	348名
幼稚園	61名
計	986名

○現在までの修了生・卒業生数

大学院	75名
短大	3、552名
専攻科	23、451名
高校	23、170名
幼稚園	5、085名
計	55、356名

表②参照

二、事業の概要(当該年度)

本学の建学の精神である「尊敬・責任・自由」と今年度の学園方針である「調和」を踏まえた計画の基、それぞれの学科、部署において教育、運営等の事業を実施した。

- 4月8日 附属高校第50回入学式
- 4月11日 大学院修士課程第15回、大学第41回、短大第57回、専攻科第7回入学式
- 4月12日 附属幼稚園第52回入学式
- 4月22日 学園創立60周年記念式典
- 5月19日 祝・入学、学園創立60周年・第150回芸術鑑賞講座「佐藤美枝子・ソプラノ リサイタル」

- 5月25日 平成18年度郡山開成学園家族会総会
- 6月30日 平成19年度大学・短大入学者選抜実施内容及び教育内容等説明会
- 7月 家族会方部別教育懇談会
- 高校(県北・田村・県南)大学・短大(仙台・浜通り・郡山・栃木・岩手・会津・福島・県南)
- 7月16日 第1回オープンキャンパス(大学・短大)
- 7月29日・30日 第1回体験入学(高校)
- 8月21日・22日 第43回学園教育充実研究会(全教職員)
- 9月3日 第2回オープンキャンパス(大学・短大)
- 9月15日 平成19年度本校(高校)教育内容等説明会
- 9月16日・17日 平成19年度大学・短大 A O 生1期選抜日
- 9月26日・10月1日 第151回芸術鑑賞講座第60回もみじ会協賛「学園歴代美術職員作品展」
- 9月27日 学園オンラインピク
- 9月30日 第60回もみじ会

- 10月1日 同
- 10月14日・15日 平成19年度大学・短大 A O 生2期選抜
- 10月19日・29日 祝・学園創立60周年第152回芸術鑑賞講座「白川義員写真展・世界百名山」
- 10月21日 平成19年度入学大学院生1期選抜日、大学三年編入1期選抜日
- 10月24日 学園創立60周年記念式典 第153回芸術鑑賞講座「雅楽・その妙なる調べ」
- 10月29日 第2回体験入学(高校)
- 11月2日 平成19年度入学大学・短大「高大連携生」選抜実施日
- 11月4日・5日 平成19年度入学大学・短大「特待生・指定校生・公募推薦生1期・特別生1期」選抜日
- 11月15日 平成19年度高校特待生選考会
- 11月21日 祝・学園創立60周年第154回芸術鑑賞講座「チコ・プラハ管弦楽団」
- 11月25日 平成19年度入学大学院生2期選抜日
- 12月2日・3日 平成19年度入学

- 大学・短大「公募推薦生2期・特別生2期・専攻科1期」選抜日
- 12月12日 祝・学園創立60周年第155回芸術鑑賞講座「ニコライ・トカレフ ピアノリサイタル」
- 12月13日 平成19年度高校推薦生選考会
- 1月17日 平成19年度高校学力選考会1期選考会
- 1月20日・21日 平成19年度大学入試センター試験会場校
- 1月27日 平成19年度大学・短大 A O 生3期選抜日
- 附属幼稚園平成19年度新入園児1日入園
- 2月4日・5日 平成19年度入学大学・短大「一般生1期」、大学「三年編入生2期」選抜日
- 2月17日 高校学力選考会2期選考会/平成19年度大学・短大 A O 生4期選抜
- 3月3日 平成18年度高校第48回卒業式
- 3月5日・6日 平成19年度入学大学・短大「一般生2期」、大学「三年編入生3期」選抜日
- 3月10日 平成19年度大学・短大 A O 生5期選抜
- 3月16日 高校学力選考会3期選考会
- 3月18日 平成18年度大学院修士課程第14回修了式、大学第38回、短大56回、専攻科第6回卒業式
- 3月19日 平成18年度附属幼稚園第52回卒業式
- 3月23日 附属高校新入生説明会

- ※教育等実施内容点検評価報告書
 - 年度の教育内容と学生・生徒・園児の校内生活状況について、実施内容と自己点検評価(反省)等を記した「教育等実施内容点検評価報告書」を関係部署で作成提出。
 - 作成した報告書を常に閲覧できるように製本して保管(事務局各部署も含む)。左記のことを記載。①現状について②年度当初の計画③実施経過並びに問題点④実施内容についての自己点検評価(反省)⑤学生・生徒・園児の校内生活状況。
 - ※教学関係
 - (1)郡山女子大学大学院の特待制度の発足
 - (2)郡山女子大学家政学部食物栄養学科に「栄養教諭一種免許状」を取得できるように「栄養教諭課程」を設
- 置(学則変更)
- (3)郡山女子大学短期大学部保育科を幼児教育学科に名称変更(学則変更)
 - (4)郡山女子大学短期大学部家政科福祉情報専攻の「訪問介護員1級課程」廃止に伴うカリキュラム変更(学則変更)
 - (5)郡山女子大学短期大学部生活芸術科の専門科目のより一層の充実を図るためにカリキュラムの一部を変更(学則変更)
 - (6)教員組織の変更(助教授→准教授他)
 - (7)郡山女子大学附属高等学校コース制の見直しと学則定員の変更(学則変更)
 - (8)郡山女子大学附属幼稚園則の変更(園則変更)
 - ※学園関係
 - (1)寄附行為の一部変更(幼児教育学科の名称変更・収益事業の廃止)
 - (2)学園資産運用規程の策定
 - (3)学園創立60周年記念式典の挙行
 - ※対外的活動
 - ☆委員の委嘱等
 - (1)講師派遣 59件
 - (2)委員の委嘱 89件
 - (3)非常勤講師 39件
 - ※土地
 - (1)附属高等学校北側隣接土地
 - (2)本郡校地西側隣接土地
 - (3)郡山市所有土地
 - (4)附属幼稚園西側隣接土地建物
 - ※施設関係
 - 耐震補強工事を行い学生・生徒等の安全確保を図るとともに、教育充実発展のため様々な環境整備を行った。
 - ☆建物
 - (1)大学図書館耐震補強工事
 - (2)83年館介護・入浴実習室改修工事
 - (3)芸術館渡り廊下工事
 - (4)家政館地下1階学生用ロッカー改修工事
 - (5)附属高校特別教室東棟耐震補強工事
 - (6)附属高校正面守衛所の改築
 - ☆構築物等
 - (1)大学・短大・高校校内LAN増設
 - (2)防火水槽、排水路の改修
 - (3)高校特別教室西棟北側自転車置き場改修
 - (4)屋上菜園、芸術館中庭改修

表① 院生・学生・生徒・園児在籍総数【2,550人】学則等収容定員【3,119人】

大学院	課程名	在籍数	入学定員	在籍学生数					収容定員
				(修)1	(修)2	(博)1	(博)2	(博)3	
	修士課程	10	4	3					7
	博士課程	3				0	0	1	1
	合計	13	4	3	0	0	1	8	29

郡山女子大学	学科名	在籍数	入学定員	編入定員	在籍学生数					収容定員
					1年次	2年次	3年次	4年次	合計	
	人間生活学科	50	10	34	38	28	43	143	320	
	食物栄養学科	80	10	88	90	95	74	347	320	
	合計	130	20	122	128	123	117	490	640	

(含編入定員40名)

附属高等学校	学科名	在籍数	入学定員	在籍学生数				収容定員
				1年次	2年次	3年次	合計	
	普通科	360	205	239	289	733	1,080	
	音楽科	20	15	8	8	31	60	
	美術科	20	20	15	16	51	65	
	食物科	40	39	43	40	122	125	
	合計	440	279	305	353	937	1,330	

表② 役員・教職員

学校別	教員数	職員数	非常勤講師	合計
郡山女子大学	32名	24名	19名	75名
郡山女子大学短期大学部	52名	40名	59名	151名
郡山女子大学附属高等学校	66名	9名	22名	97名
郡山女子大学附属幼稚園	10名	1名	11名	22名
計	160名	74名	100名	334名

☆役員(理事9名・監事2名・評議員22名)
☆時間雇用職員 12名

表③ 平成19年度 学校法人郡山開成学園 学生・生徒・園児在籍数一覧(5月1日現在)

●院生・学生・生徒・園児在籍総数【2,416人】<学則・校則・園則収容定員数 3,119人>

大学院	課程名	在籍数	入学定員	在籍学生数					収容定員
				(修)1	(修)2	(博)1	(博)2	(博)3	
	修士課程	10	2	4					6
	博士課程	3				0	0	0	0
	合計	13	2	4	0	0	0	6	29

郡山女子大学	学科名	在籍数	入学定員	編入定員	在籍学生数					収容定員
					1年次	2年次	3年次	4年次	合計	
	人間生活学科	50	10	31	32	39	33	135	270	
	食物栄養学科	80	10	80	87	97	95	359	340	
	合計	130	20	111	119	136	128	494	610	

(含編入定員40名)

附属高等学校	学科名	在籍数	入学定員	在籍学生数				収容定員
				1年次	2年次	3年次	合計	
	普通科	320	211	189	225	625	1,040	
	音楽科	20	12	13	8	33	60	
	美術科	20	23	19	15	57	60	
	食物科	40	39	35	43	117	120	
	合計	400	285	256	291	832	1,280	

- 大学・短大「公募推薦生2期・特別生2期・専攻科1期」選抜日
- 12月12日 祝・学園創立60周年第155回芸術鑑賞講座「ニコライ・トカレフ ピアノリサイタル」
- 12月13日 平成19年度高校推薦生選考会
- 1月17日 平成19年度高校学力選考会1期選考会
- 1月20日・21日 平成19年度大学入試センター試験会場校
- 1月27日 平成19年度大学・短大 A O 生3期選抜日
- 附属幼稚園平成19年度新入園児1日入園
- 2月4日・5日 平成19年度入学大学・短大「一般生1期」、大学「三年編入生2期」選抜日
- 2月17日 高校学力選考会2期選考会/平成19年度大学・短大 A O 生4期選抜
- 3月3日 平成18年度高校第48回卒業式
- 3月5日・6日 平成19年度入学大学・短大「一般生2期」、大学「三年編入生3期」選抜日
- 3月10日 平成19年度大学・短大 A O 生5期選抜
- 3月16日 高校学力選考会3期選考会
- 3月18日 平成18年度大学院修士課程第14回修了式、大学第38回、短大56回、専攻科第6回卒業式
- 3月19日 平成18年度附属幼稚園第52回卒業式
- 3月23日 附属高校新入生説明会

- ※教育等実施内容点検評価報告書
 - 年度の教育内容と学生・生徒・園児の校内生活状況について、実施内容と自己点検評価(反省)等を記した「教育等実施内容点検評価報告書」を関係部署で作成提出。
 - 作成した報告書を常に閲覧できるように製本して保管(事務局各部署も含む)。左記のことを記載。①現状について②年度当初の計画③実施経過並びに問題点④実施内容についての自己点検評価(反省)⑤学生・生徒・園児の校内生活状況。
 - ※教学関係
 - (1)郡山女子大学大学院の特待制度の発足
 - (2)郡山女子大学家政学部食物栄養学科に「栄養教諭一種免許状」を取得できるように「栄養教諭課程」を設
- 置(学則変更)
- (3)郡山女子大学短期大学部保育科を幼児教育学科に名称変更(学則変更)
 - (4)郡山女子大学短期大学部家政科福祉情報専攻の「訪問介護員1級課程」廃止に伴うカリキュラム変更(学則変更)
 - (5)郡山女子大学短期大学部生活芸術科の専門科目のより一層の充実を図るためにカリキュラムの一部を変更(学則変更)
 - (6)教員組織の変更(助教授→准教授他)
 - (7)郡山女子大学附属高等学校コース制の見直しと学則定員の変更(学則変更)
 - (8)郡山女子大学附属幼稚園則の変更(園則変更)
 - ※学園関係
 - (1)寄附行為の一部変更(幼児教育学科の名称変更・収益事業の廃止)
 - (2)学園資産運用規程の策定
 - (3)学園創立60周年記念式典の挙行
 - ※対外的活動
 - ☆委員の委嘱等
 - (1)講師派遣 59件
 - (2)委員の委嘱 89件
 - (3)非常勤講師 39件
 - ※土地
 - (1)附属高等学校北側隣接土地
 - (2)本郡校地西側隣接土地
 - (3)郡山市所有土地
 - (4)附属幼稚園西側隣接土地建物
 - ※施設関係
 - 耐震補強工事を行い学生・生徒等の安全確保を図るとともに、教育充実発展のため様々な環境整備を行った。
 - ☆建物
 - (1)大学図書館耐震補強工事
 - (2)83年館介護・入浴実習室改修工事
 - (3)芸術館渡り廊下工事
 - (4)家政館地下1階学生用ロッカー改修工事
 - (5)附属高校特別教室東棟耐震補強工事
 - (6)附属高校正面守衛所の改築
 - ☆構築物等
 - (1)大学・短大・高校校内LAN増設
 - (2)防火水槽、排水路の改修
 - (3)高校特別教室西棟北側自転車置き場改修
 - (4)屋上菜園、芸術館中庭改修

劇団四季 六年振り 本学公演

祝・入学 第百五十八回芸術鑑賞講座

ミュージカル 夢から醒めた夢



夜の遊園地での躍動的な歌と踊りのファンタジー



マコ(左)がピコと入れ替わって霊界へ



ロビーパフォーマンス 小人の国の少女たち



ロビーパフォーマンス おもちゃの兵隊のタップ

劇団四季が六年振りに学園にやってきた。祝・入学、第百五十六回芸術鑑賞講座は劇団四季のミュージカル「夢から醒めた夢」。

五月二十四日、建学記念講堂大ホールで高校の部と大学の部の二回、家族会会員の保護者も一緒に約三千名が鑑賞した。

「夢から醒めた夢」は赤川次郎原作、四季オリジナルミュージカルとして千回上演の記録を更新中の話題作。夜の遊園地での華やかな歌と踊りから霊界空待合室へと夢の世界が展開。主人公のピコ(吉沢梨絵)とマコ(花田えりか)が愛をありがとうと、やさしさをありがとうと命の大切さを歌い上げる感動のラストシーンまで目が離せない。涙と笑いに包まれた二時間の夢舞台であった。

これからの芸術鑑賞講座 予告

▽十月十日(水)

第百五十八回「N響トップメンバーによる・プラスアンサンブルコンサート」

▽十月二十五日(木)二十六日(金) 第百五十九回「ルイジ・ピオヴァーノ&イタリア・カンパニア合奏団」ゲスト足立さつき(ソプラノ)

暴力追放ポスターに三名揃って入賞の快挙——高校美術科——

全国地域安全運動・暴力追放ポスター・標語コンクール県審査会のポスターの高校・一般の部で本校美術科三年の佐々木千晶さん、齋藤幸恵さんが優秀賞。吉田知加さんが佳作に入賞した。

佐々木さんは、犯罪が若年層にも広がっていることに不安を感じていたので、万引防止をテーマに、



万引防止を訴える佐々木さんの作品



齋藤さんの薬物乱用防止ポスター



吉田さんのポスター

広報誌の表紙を飾ったポスターに「私たちが選挙に夢や未来を託していることが伝わってきます」とコメントされている。

吉田さんのポスターが
明るい選挙推進の広報誌の
表紙を飾る——高校美術科——

平成十八年度の明るい選挙啓発ポスター審査で、文部科学大臣・総務大臣賞を受賞した本校美術科三年・吉田知加さんの作品が、総務省・中央選挙管理会・明るい選挙推進協会発行の広報誌「私たちの広場」第二九五号の表紙を飾った。同誌は年六回発行、全国で約十八万部配布されている。

草原に若者が二人並んで座り、見上げた青い空に笑顔の投票用紙が踊っている図柄は、表紙紹介欄に「私たちが選挙に夢や未来を託していることが伝わってきます」とコメントされている。

夏にお別れ——附属幼稚園——
どじょうつかみ大会

往々夏を惜しんで、附属幼稚園恒例の「どじょうつかみ」が八月二十九日園内のプールで行われた。年少組から年長組のハクラス百八十七名が順番にプールに入り、放たれた約二千尾のどじょうを追いつつ、どの子の顔にも雲間から洩れた夏の終わりの陽射しが優しく光っていた。



逃げるどじょうを追う園児たち

本学所蔵 紙上美術展 53

「中村岳陵の屏風絵 潜燐」

一九三九年 紙本彩色 二曲一双

本学園所蔵の屏風絵「潜燐」がこの夏、ホテル・オークラ東京で開催された「第十三回秘蔵の名品アートコレクション展」に出品され、二万人を超える入場者が鑑賞した。アートコレクション展は企業や団体、個人が秘蔵している貴重な作品を公開する美術展で、今回は十九世紀から二十世紀にかけての西洋絵画や日本画・洋画百三点が出品された。

本学園からは中村岳陵の屏風絵「潜燐」が主催者の要請を受けて参加した。

円山応挙の屏風絵「波濤図」と並んで展示された「潜燐」は右雙に三匹、左雙に五匹の鯉を巧みに配置した図柄で、その爽やかさが会場に涼を呼び好評であった。



木もれ陽

以前東京の公園でホームレスの男が中学生グループに火を付けられ、瀕死の重傷を負った事件があった。少年達の言葉は「汚いゴミ・くずは捨ててよい、殺してよい、と思った」というものであった。身の毛もよだつ言葉である。人間をかくも軽視する彼らの感受性はいかに養われたか。家庭・社会・時代の総ての関与がこの極まりなく惨たらしい感受性を産んだのだと言っても、責任の所在は不明である。現代社会に起きた一つの凄惨な事件であった。

先の「極まりなく惨たらしい感受性」は「教養」の対極にある言葉だと思ふ。この「教養」という言葉の反対語は又「技術的な知識」、即ち「何かの役に立つ知識」、「専門化する知識」であると言われている。

米国の歴史学者のS・ローズブラットが「教養教育の系譜」の中で次のように述べている。英米系の大学教育は本来特定の能力に秀でた人間を造るのではなく、総合的な知識を持ち、かつその知識の間にバランスのとれた人間を造ることにあった。それが、「全体的人格」という概念と結びつき、人間にとって非常に重要な資格であった。そのような資格を持った人間が統治者となっていた。それがアングロサクソンの伝統であった。十九世紀以後の大学教育が専門知識に偏ったことは心配である、と。

近代の「技術的な知識」は人に勝り、人を支配するということに繋がっているが、人間の本来は「人間本位主義」思想で人に幸せをもたらすことを意味しており、一人ひとりの意志がその思想を創る、と思ふ。

(均)